

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-239773
(43)Date of publication of application : 28.08.2002

(51)Int.Cl. B23K 26/06
G02B 27/09
H01S 5/00

(21)Application number : 2001-373515 (71)Applicant : MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD

(22)Date of filing : 07.12.2001 (72)Inventor : FUNEMI KOJI

(30)Priority

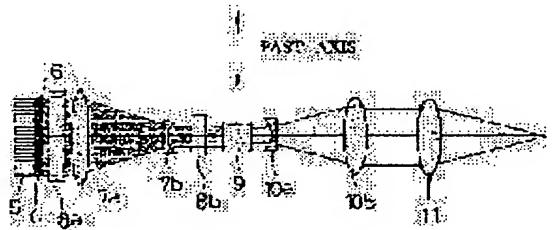
Priority number : 2000375699 Priority date : 11.12.2000 Priority country : JP

(54) DEVICE AND METHOD FOR SEMICONDUCTOR LASER BEAM MACHINING

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a semiconductor laser beam machining device which has an asymmetrical laser beam characteristics and condenses a laser beam emitted from a semiconductor laser beam array stack into a fine symmetrical spot.

SOLUTION: A collimated laser beam is divided into a plurality of laser beams by using a multibeam circulator 9, and respective divided laser beams are turned by 90 degrees and condensed to fine spots with a condensing optical system 11.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision
of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C) 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (JP)

4/7
(12)公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-239773

(P 2 0 0 2 - 2 3 9 7 7 3 A)

(43)公開日 平成14年8月28日(2002.8.28)

(51)Int.C1.⁷
B 2 3 K 26/06

識別記号

F I

テマコード (参考)

G 0 2 B 27/09
H 0 1 S 5/00

B 2 3 K 26/06

E 4E068

Z 5F073

H 0 1 S 5/00
G 0 2 B 27/00

E

審査請求 未請求 請求項の数10 O L (全 11 頁)

(21)出願番号 特願2001-373515(P2001-373515)
(22)出願日 平成13年12月7日(2001.12.7)
(31)優先権主張番号 特願2000-375699(P
(32)優先日 2000-375699)
(33)優先権主張国 平成12年12月11日(2000.12.11)
日本 (JP)

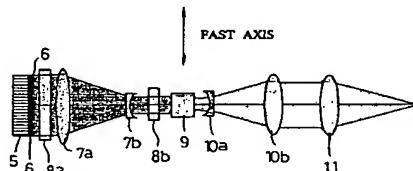
(71)出願人 000005821
松下電器産業株式会社
大阪府門真市大字門真1006番地
(72)発明者 船見 浩司
大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内
(74)代理人 100080827
弁理士 石原 勝
Fターム (参考) 4E068 CA01 CA05 CB08 CD02 CD03
CD05 CD08 CD09 CD13 CK01
5F073 AB27 BA09 EA18 EA29

(54)【発明の名称】半導体レーザー加工装置および半導体レーザー加工方法

(57)【要約】

【課題】 非対称なレーザービーム特性を持つ、半導体レーザーアレイスタックからなるレーザービームを、対称的な微小スポットに集光する半導体レーザー加工装置を提供する。

【解決手段】 マルチビームサーフィューレータ9を用いて、コリメートされたレーザービームを複数個に分割し、かつ、分割された各々のレーザービームを90度回転させた後、集光光学系11で集光することにより、微小スポットに絞る。



FP04-0159-00W0
'04.9.07
SEARCH REPORT

【特許請求の範囲】

【請求項1】 半導体レーザーアレイを、そのエミッタ配列方向であるスローアクシス方向に対し直交するファーストアクシス方向に積層して形成される半導体レーザーアレイスタックと、

各々の半導体レーザーアレイから発振されるレーザービームを、そのファーストアクシス方向成分を概略平行ビームにコリメートするファーストコリメート光学系と、このコリメートされた各々のレーザービームからなるレーザービーム群のファーストアクシス方向のレーザービーム径を縮小すると共にそのレーザービーム拡がり角を大きくする縮小シリンドリカルコリメータ光学系と、前記レーザービーム群のスローアクシス方向のレーザービーム径を拡大すると共にそのレーザービーム拡がり角を小さくする第1拡大シリンドリカルコリメータ光学系と、

前記光学系より出射したレーザービームを、スローアクシス方向に分割し、分割された各々のレーザービームを概略90度回転させるマルチビームサーキュレータと、このマルチビームサーキュレータより出射したレーザービームのファーストアクシス方向のレーザービーム径を拡大すると共にそのレーザービーム拡がり角を小さくする第2拡大シリンドリカルコリメータ光学系と、

前記第2拡大シリンドリカルコリメータ光学系より出射したレーザービームを集光する集光光学系とを備えたことを特徴とする半導体レーザー加工装置。

【請求項2】 半導体レーザーアレイを、そのエミッタ配列方向であるスローアクシス方向に対し直交するファーストアクシス方向に積層して形成される半導体レーザーアレイスタックと、

各々の半導体レーザーアレイから発振されるレーザービームを、そのファーストアクシス方向成分を概略平行ビームにコリメートするファーストコリメート光学系と、各々の半導体レーザーアレイから発振されるレーザービームを、そのスローアクシス方向成分のレーザービーム拡がり角を低減するスローコリメート光学系と、

このコリメートされた各々のレーザービームからなるレーザービーム群のファーストアクシス方向のレーザービーム径を縮小すると共にそのレーザービーム拡がり角を大きくする縮小シリンドリカルコリメータ光学系と、

前記レーザービーム群のスローアクシス方向のレーザービーム径を拡大すると共にそのレーザービーム拡がり角を小さくする第1拡大シリンドリカルコリメータ光学系と、

前記光学系より出射したレーザービームを、スローアクシス方向に分割し、分割された各々のレーザービームを概略90度回転させるマルチビームサーキュレータと、このマルチビームサーキュレータより出射したレーザービームのファーストアクシス方向のレーザービーム径を拡大すると共にそのレーザービーム拡がり角を小さくす

る第2拡大シリンドリカルコリメータ光学系と、

前記第2拡大シリンドリカルコリメータ光学系より出射したレーザービームを集光する集光光学系とを備えたことを特徴とする半導体レーザー加工装置。

【請求項3】 マルチビームサーキュレータは、プリズムを複数個並列に配置したマルチプリズムからなるものである請求項1または2記載の半導体レーザー加工装置。

【請求項4】 プリズムは、入射レーザービームを屈折させる面と、プリズムに入射して屈折されたレーザービームをプリズム内部で全反射する面と、その全反射したレーザービームを屈折させてプリズムの外部へ透過させる面とを備えたものである請求項3記載の半導体レーザー加工装置。

【請求項5】 入射レーザービームを屈折させる面とプリズム内部で全反射する面とのなす角と、プリズム内部で全反射する面とプリズムの外部へ透過させる面とのなす角とが、概略同じである請求項4記載の半導体レーザー加工装置。

【請求項6】 半導体レーザーアレイをそのエミッタ配列方向であるスローアクシス方向に対し直交するファーストアクシス方向に積層して、そこから発振されるレーザービームをそのファーストアクシス方向成分について概略平行ビームにコリメートする工程と、このコリメートされた各々のレーザービームを、そのファーストアクシス方向のレーザービーム径を縮小すると共にそのレーザービーム拡がり角を大きくする一方、そのスローアクシス方向のレーザービーム径を拡大すると共にそのレーザービーム拡がり角を小さくする工程と、次いでレーザービームをスローアクシス方向に分割し、更に、分割された各々のレーザービームを概略90度回転させる工程と、ファーストアクシス方向のレーザービーム径を拡大すると共にそのレーザービーム拡がり角を小さくする工程と、次いでレーザービームを集光する工程とを有することを特徴とする半導体レーザー加工方法。

【請求項7】 半導体レーザーアレイをそのエミッタ配列方向であるスローアクシス方向に対し直交するファーストアクシス方向に積層して、そこから発振されるレーザービームをそのファーストアクシス方向成分について概略平行ビームにコリメートする工程と、前記レーザービームをそのスローアクシス方向成分についてビーム拡がり角を低減する工程と、このコリメートされ、ビーム拡がり角を低減された各々のレーザービームを、そのファーストアクシス方向のレーザービーム径を縮小すると共にそのレーザービーム拡がり角を大きくする一方、そのスローアクシス方向のレーザービーム径を拡大すると共にそのレーザービーム拡がり角を小さくする工程と、次いでレーザービームをスローアクシス方向に分割し、更に、分割された各々のレーザービームを概略90度回転させる工程と、ファーストアクシス方向のレーザービ

ーム径を拡大すると共にそのレーザービーム拡がり角を小さくする工程と、次いでレーザービームを集光する工程とを有することを特徴とする半導体レーザー加工方法。

【請求項8】 半導体レーザーアレイを、そのエミッタ配列方向であるスローアクシス方向に対し直交するファーストアクシス方向に積層して形成される半導体レーザーアレイスタックと、
各々の半導体レーザーアレイから発振されるレーザービームを、そのファーストアクシス方向成分を概略平行ビームにコリメートするコリメート光学系と、
このコリメートされた各々のレーザービームからなるレーザービーム群を、そのスローアクシス方向に分割し、
そのスローアクシス方向の直進性の低いレーザービーム成分を90度偏向させてファーストアクシス方向のレーザービーム成分と合成するマルチカラーライドスコープと、
このマルチカラーライドスコープより出射したレーザービームを集光する集光光学系とを備えたことを特徴とする半導体レーザー加工装置。

【請求項9】 マルチカラーライドスコープは、長方形断面を持った角柱形状のガラス基板を複数個並べ、これらガラス基板を、その入射面がファーストアクシスとスローアクシスとのなす面に平行で、スローアクシスに対し45度傾斜して配置されたものである請求項8記載の半導体レーザー加工装置。

【請求項10】 半導体レーザーアレイをそのエミッタ配列方向であるスローアクシス方向に対し直交するファーストアクシス方向に積層して、そこから発振されるレーザービームをそのファーストアクシス方向成分について概略平行ビームにコリメートする工程と、このコリメートされた各々のレーザービームを、そのスローアクシス方向に分割し、更に、そのスローアクシス方向の直進性の低いレーザービーム成分を90度偏向させてファーストアクシス方向のレーザービーム成分と合成する工程と、次いでレーザービームを集光する工程とを有することを特徴とする半導体レーザー加工方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、1次元配列の半導体レーザーアレイを積層して形成される2次元配列の半導体レーザーアレイスタックにおいて、その半導体レーザーアレイスタックから発振されるレーザービームを、微小スポットに集光するための集光光学系を備えた半導体レーザー加工装置および半導体レーザー加工方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 1次元配列の半導体レーザーアレイ1は、図1に示す様な形態をしており、主として、半導体レーザーアレイチップ2とヒートシンク3から構成されている。

【0003】 半導体レーザーアレイチップ2は、半導体レーザーエミッタ4が一定のピッチで複数個、直線状に並べられている。例えば、この半導体レーザーエミッタ4は、その厚さは約1μmと狭く、逆に、その幅は約100μmと広くなっている。更に、その半導体レーザーエミッタ4は、約200μmのピッチで、その幅方向に、約50個並んでいる。そのため、半導体レーザーアレイチップ2の幅寸法は、約10mmとなっている。半導体レーザーエミッタ4からのレーザー出力が1Wの場合、それが50個あれば、50Wのレーザー出力となる。

【0004】 ヒートシンク3は、半導体レーザーアレイチップ2からの発熱を放熱させるためのものであり、水冷、又は空冷構造となっており、その厚みは約2mmである。

【0005】 半導体レーザーエミッタ4から出るレーザービーム拡がり角(全角)は、その厚さ方向に対して約35度、幅方向に対して約10度となっている。また、レーザー発振出口のレーザービーム径は、半導体レーザーエミッタ4の活性層サイズに相当するため、厚さ方向が1μm、幅方向が100μmとなる。

【0006】 この半導体レーザーエミッタ4を複数個合わせた半導体レーザーアレイチップ2においては、複数個の半導体レーザーエミッタ4がその幅方向に一直線上に並んでいるため、そのレーザービーム拡がり角は、個々のその半導体レーザーエミッタ4の場合と同じとなり、厚さ方向に対して約35度、幅方向に対して約10度となる。但し、出口のレーザービーム径は、厚さ方向が1μmであるが、幅方向は10mmとなる。

【0007】 更に、図2に示すように、1次元配列の半導体レーザーアレイ1をその厚さ方向に積層したものが、半導体レーザーアレイスタック5である。例えば、20個の半導体レーザーアレイ1を積層すれば、約1kWのレーザー出力が得られる(50W×20個)。そのときの、半導体レーザーアレイスタック5からのレーザービーム径(レーザー発光面)は、厚さ方向で40mm(半導体レーザーアレイ1の厚み2mm×20個)、幅方向で10mmとなる。また、レーザービーム拡がり角が、半導体レーザーアレイ1の場合と同じで、厚さ方向に対して約35度、幅方向に対して約10度となる。

【0008】 一般に、上述してきた、半導体レーザーエミッタ4に対して、その厚さ方向の光軸をファーストアクシス(FAST AXIS)、逆に、その幅方向の光軸をスローアクシス(SLOW AXIS)と呼んでいる。

【0009】 このように、1kWオーダの高出力が得られる半導体レーザーアレイスタック5を、レーザー加工にダイレクトに使っていくためには、その半導体レーザーアレイスタック5から出るレーザービームを微小スポットに絞る必要がある。そのためには、レーザービーム

の拡がり角の改善が必要である。

【0010】一般に、ファーストアクシスにおいては、レーザービーム拡がり角 (θ_1) が約35度とかなり大きいために、図3 (a) (b) に示す様に1直線状の半導体レーザーレイチップ2の前方に、コリメートレンズ (ファーストコリメートレンズ) 6 を取付けて、ファーストアクシスのレーザービームの拡がり角の低減を図っている。例えば、コリメートレンズ6として、球面シリンドリカルレンズ、非球面シリンドリカルレンズなどが用いられている。例えば、このコリメートレンズ6を使用することにより、ファーストアクシス側のレーザービーム拡がり角 (θ_2) が、約35度から0.24度 (4 mrad) に改善できる。

【0011】一方、スローアクシス方向においては、基本的に、レーザービームの発光源が10mm幅のライン状になっているため、そのビーム拡がり角を容易に低減することはできず、上述したように、約10度 (17.5 mrad) のビーム拡がり角が生じている。

【0012】つまり、コリメートレンズ6付の半導体レーザーレイスタック5から出るレーザービームの拡がり角は、ファーストアクシスで4 mrad、スローアクシスで17.5 mradとアンバランスになっている。

【0013】

【発明が解決しようとする課題】上述したように、半導体レーザーレイスタック5から出るレーザービームの拡がり角は、半導体レーザーエミッタ4自身の構造、ひいては、半導体レーザーレイ1、半導体レーザーレイスタック5の構造が原因で、レーザービームの拡がり角が大きく、かつ、アンバランスが生じている。コリメートレンズ6を用いて、多少は、改善されるが、現状では、レーザービーム拡がり角は、ファーストアクシスで4 mrad、スローアクシスで17.5 mradのアンバランスが生じている。また、基本的に、半導体レーザーエミッタ4が2次元的に配列されているため、レーザービームの発光面も、多点であり、面積的にも大きくなっている。例えば、1 kWのレーザー出力 (半導体レーザーエミッタ4が50×20個の半導体レーザーレイスタック) では、10mm×40mmの発光面となっている。

【0014】そのため、通常の球面レンズで集光するだけであるならば、その集光レンズでのスポット径も、レーザービーム拡がり角の値に比例した形状となる。例えば、焦点距離50mmの集光レンズで集光したときのスポット形は、ファーストアクシスで0.2mm (50mm×4 mrad) 、スローアクシスで8.75mm (50mm×17.5 mrad) となる。

【0015】このようなライン状のスポット径は、その方向性に制限されるため、取扱いが非常に面倒となり、対称的なスポット径が望まれている。また、現時点では、微小スポット径に絞ることができないため、微細

一加工にも不適当である。

【0016】この課題を解決するために、スローアクシス側に、シリンドリカルコリメータを用いて、レーザービームの品質 (拡がり角) を改善する方法があるが、光学系が非常に大きくなってしまうという欠点がある。

【0017】

【課題を解決するための手段】本発明は上記課題を解決するため、半導体レーザーレイを、そのエミッタ配列方向であるスローアクシス方向に対し直交するファーストアクシス方向に積層して形成される半導体レーザーレイスタックと、各々の半導体レーザーレイから発振されるレーザービームを、そのファーストアクシス方向成分を概略平行ビームにコリメートするファーストコリメート光学系と、このコリメートされた各々のレーザービームからなるレーザービーム群のファーストアクシス方向のレーザービーム径を縮小すると共にそのレーザービーム拡がり角を大きくする縮小シリンドリカルコリメータ光学系と、前記レーザービーム群のスローアクシス方向のレーザービーム径を拡大すると共にそのレーザービーム拡がり角を小さくする第1拡大シリンドリカルコリメータ光学系と、前記光学系より出射したレーザービームを、スローアクシス方向に分割し、分割された各々のレーザービームを概略90度回転させるマルチビームサーチュレータと、このマルチビームサーチュレータより出射したレーザービームのファーストアクシス方向のレーザービーム径を拡大すると共にそのレーザービーム拡がり角を小さくする第2拡大シリンドリカルコリメータ光学系と、前記光学系より出射したレーザービームを集光する集光光学系とを備えたことを特徴とする。

【0018】また本発明は上記課題を解決するため、半導体レーザーレイを、そのエミッタ配列方向であるスローアクシス方向に対し直交するファーストアクシス方向に積層して形成される半導体レーザーレイスタックと、各々の半導体レーザーレイから発振されるレーザービームを、そのファーストアクシス方向成分を概略平行ビームにコリメートするファーストコリメート光学系と、各々の半導体レーザーレイから発振されるレーザービームを、そのスローアクシス方向成分のレーザービーム拡がり角を低減するスローコリメート光学系と、このコリメートされた各々のレーザービームからなるレーザービーム群のファーストアクシス方向のレーザービーム径を縮小すると共にそのレーザービーム拡がり角を大きくする縮小シリンドリカルコリメータ光学系と、前記レーザービーム群のスローアクシス方向のレーザービーム径を拡大すると共にそのレーザービーム拡がり角を小さくする第1拡大シリンドリカルコリメータ光学系と、前記光学系より出射したレーザービームを、スローアクシス方向に分割し、分割された各々のレーザービームを概略90度回転させるマルチビームサーチュレータと、このマルチビームサーチュレータより出射したレーザー

ビームのファーストアクシス方向のレーザービーム径を拡大すると共にそのレーザービーム拡がり角を小さくする第2拡大シリンドリカルコリメータ光学系と、前記第2拡大シリンドリカルコリメータ光学系より出射したレーザービームを集光する集光光学系とを備えたことを特徴とする。

【0019】また本発明は上記課題を解決するため、半導体レーザーアレイを、そのエミッタ配列方向であるスローアクシス方向に対し直交するファーストアクシス方向に積層して形成される半導体レーザーアレイスタックと、各々の半導体レーザーアレイから発振されるレーザービームを、そのファーストアクシス方向成分を概略平行ビームにコリメートするコリメート光学系と、このコリメートされた各々のレーザービームからなるレーザービーム群を、そのスローアクシス方向に分割し、そのスローアクシス方向の直進性の低いレーザービーム成分を90度偏向させてファーストアクシス方向のレーザービーム成分と合成するマルチカライドスコープと、このマルチカライドスコープより出射したレーザービームを集光する集光光学系とを備えたことを特徴とする。

【0020】上記各発明によれば、装置の大型化を招かないで、対照的かつ微小なスポット径(0.6mm×0.6mm程度まで可能)のスポットにレーザービームを集光することができる。

【0021】

【発明の実施の形態】以下に、本発明を、図面を参照しながら具体的に説明する。図4、図5は、本発明の第1実施例を示し、図4は、ファーストアクシス方向、図5は、スローアクシス方向に対する光学系のレイアウトを示している。

【0022】図4、図5において、5は半導体レーザーアレイスタック、6はコリメートレンズ(ファーストコリメートレンズ)、7a・7bはファーストアクシス方向の縮小シリンドリカルコリメータ、8a・8bはスローアクシス方向の第1拡大シリンドリカルコリメータ、9はマルチビームサーキュレータ、10a・10bはファーストアクシス方向の第2拡大シリンドリカルコリメータ、11は集光レンズである。

【0023】次に、具体的に、数値を示しながら、図4、図5で示した集光光学系の機能について説明をする。

【0024】本実施例において、半導体レーザーアレイスタック5は、1kWのレーザー出力を有しており、従来例で述べたように、50個の半導体レーザーエミッタ4からなる半導体レーザーアレイスタック5を搭載した半導体レーザーアレイ1が、その厚み方向に20個積層されている。

【0025】従来例で述べたように、この半導体レーザーアレイスタック5から出るレーザービームの拡がり角(全角)は、ファーストアクシス方向に35度、スロー

アクシス方向に10度となっている。また、レーザービームの発光面、つまり、出口でのレーザービーム径は、ファーストアクシス方向に40mm、スローアクシス方向に10mmとなっている。

【0026】この20個の半導体レーザーアレイ1に搭載されている半導体レーザーエミッタ4の前方には、それぞれ、コリメートレンズ6が取付けられている。図6には、1個の半導体レーザーアレイ1と、それに搭載されているコリメートレンズ6の側面図を示している。図10において、2は半導体レーザーアレイチップ、3はヒートシンク、12は半導体レーザーアレイチップ2から出たレーザービームである。

【0027】このコリメートレンズ6により、ファーストアクシス方向に拡がっていくレーザービームを、概略平行ビームにすることができる。その結果、ファーストアクシス方向のビーム拡がり角(全角)は、35度から0.24度(4mrad)に改善される。一方、スローアクシス方向のビーム拡がり角(全角)は、10度、つまり175mradとなっている。

【0028】次に、ファーストアクシス方向レーザービームを、縮小シリンドリカルコリメータ7a・7bにより、1/3に縮小すると、その拡がり角(全角)は3倍、つまり、12mradとなる。一方、レーザービーム径は1/3、つまり13.33mmとなる。

【0029】スローアクシス方向レーザービームについては、第1拡大シリンドリカルコリメータ8a・8bにより、5倍に拡大すると、その拡がり角(全角)は1/5倍、つまり35mradとなる。一方、レーザービーム径は5倍、つまり50mmとなる。

【0030】次に、これらの光学系を通ってきたレーザービームに対して、スローアクシス方向に、そのレーザービームを複数個(例えば、10個)に分割する。更に分割された各々のレーザービームを90度回転させる。本発明においては、レーザービームを分割し、かつ、分割された各々のレーザービームを90度回転させる機能を有する部材を、マルチビームサーキュレータ9と呼んでいる。マクロ的にみると、このマルチビームサーキュレータ9により、ファーストアクシスとスローアクシスのレーザービームの拡がり角が入れ替わる。

【0031】そのため、マルチビームサーキュレータ9を通ってきたレーザービームのファーストアクシス方向のビーム径は13.33mm、拡がり角は35mradとなり、スローアクシス方向のビーム径は50mm、拡がり角は12mradとなる。

【0032】次に、ファーストアクシス方向の第2拡大シリンドリカルコリメータ10a・10bにより、レーザービームはファーストアクシス方向にだけ、3倍に拡大される。そのため、ファーストアクシス方向のビーム径は40mm、拡がり角は12mradとなる。

【0033】そして、最後に、集光レンズ11により、

レーザービームが集光される。例えば、集光レンズ11の焦点距離が50mmのとき、集光スポット径は、0.6mm×0.6mmとなる。

【0034】このように、本発明によると、集光スポット径は、0.6mm×0.6mmといった対称的なスポット径を得ることができる。更には、径0.6mmという大きさまで、集光することができる。

【0035】次に、マルチビームサーキュレータ9の1例について、プリズム14を用いた方式を例に挙げて、図7以降の図面を参照しながら述べる。

【0036】図7はプリズム14の側面図、図8はプリズム14の上面図である。本実施例において、プリズムは6面体をなしており、それぞれの面をA、B、C、D、E、Fとする。面Bと面D、面Eと面Fとは、それぞれ、平行な面である。また、面Aと面Bとのなす角 α と、面Bと面Cとのなす角 β とは、等しい。

【0037】次に、このプリズム14の機能を、図9を用いて説明する。レーザービーム15は、プリズム14の入射面Aから入射するとき、その入射面Aで屈折する。その屈折角度は、プリズム14の屈折率に依存している。更に、入射してきたレーザービーム15は、プリズム14の全反射面Bで全反射する。その後、レーザービーム16は、プリズム14の透過面Cを透過して、プリズム14の外部（大気中）に、屈折されたレーザービーム17が出ていく。

【0038】本実施例では、面Aと面Bとのなす角 α と、面Bと面Cとのなす角 β とが等しいため、プリズム14への入射レーザービーム15と出射レーザービーム17とは平行ビームとなる。また、面Aと面Bとのなす角 α （又は、面Bと面Cとのなす角 β ）と、全反射面Bの長さとを最適に設定することにより、プリズム14への入射レーザービーム15と出射レーザービーム17とを、同一光軸上にすることができる。

【0039】次に、図10で示した、入射レーザービーム15の像は、プリズム14内部で全反射されるため、図面上で、上下反転した出射レーザービーム17として出てくる。具体的には、入射レーザービーム15の上方への矢印像が、出射レーザービーム17では下向きの像となる。つまり、像は、180度回転する。

【0040】また、図11に示したように、プリズム14への入射レーザービーム15の像が45度傾いているとき、その出射レーザービーム17の像は、入射レーザービーム15の像に対して、90度回転する。逆に、入射レーザービーム15に対して、プリズム14を45度傾けることにより、プリズム14から出る出射レーザービーム17を90度回転させることができる。

【0041】図12は、このプリズム14を多数並べた例である。本実施例では、5個のプリズム14を、ずらせながら、設置している。この集合したマルチプリズム18に対して、図12（a）に示すように、入射レーザ

ビーム15を45度傾けることにより、出射レーザービーム17を入射レーザービーム15に対して90度回転させることができる。

【0042】従って、マルチビームサーキュレータ9として、マルチプリズム18を、図12（a）に示すように配置することにより、直交している、ファーストアクシスとスローアクシスとのレーザービーム成分を、図12（b）に示すように、入れ替えることができる。なお、マルチプリズム18は、各プリズム14の全反射面Bがファーストアクシスとスローアクシスとがなす面に直交すると共に、ファーストアクシスおよびスローアクシスの両者にそれぞれ45°で交差するように配置されている。

【0043】次に本発明の第2実施例を、図13、図14を参照しながら説明する。

【0044】半導体レーザーアレイスタック5から出たレーザービームは、コリメートレンズ6で、概略平行なレーザービームとなり、マルチカライドスコープ19を用いて、ファーストアクシス方向のレーザービームはそのまま直進させ、一方、スローアクシス方向においては、その方向にレーザービームを複数個に分割し、更に、そのスローアクシス方向のレーザービーム成分の直進性が高いレーザービーム成分を直進させ、直進性の低いレーザービーム成分を90度偏向させ、ファーストアクシス方向のレーザービーム成分と合成させる。

【0045】マルチカライドスコープ19から出たレーザービームは、スローアクシス方向の品質が上がり、逆に、ファーストアクシス方向の品質が低下し、トータル的にみると、両軸（ファーストアクシス、スローアクシス）の品質が近づくため、集光レンズ11でそのレーザービームを集光させると、対称的で微小な集光スポット径が得られる。

【0046】次に、上記で示したマルチカライドスコープ19の機能について、図15を参照しながら説明をする。図15は、マルチカライドスコープ19の光軸方向の断面図であり、長方形の断面形状をした角柱のガラス基板20が、複数個並列に並んでいる。さらに、これらガラス基板20は、その入射面がそれぞれ、ファーストアクシスとスローアクシスとのなす面と平行で、スローアクシスに対して45度傾いて配置されている。つまり、本図において、図面上で、縦軸方向がファーストアクシス方向、横軸方向がスローアクシス方向となっている。

【0047】図16に示すように、ファーストアクシス方向のレーザービーム成分は、レーザービーム拡がり角が小さくビームの直進性が高いため、このマルチカライドスコープ19をそのまま直進し、通過していく。

【0048】一方、図17に示すように、スローアクシス方向のレーザービーム成分は、ある程度のビーム拡がり角を持っている。そのため、そのレーザービーム成分

の直進性の高いレーザービームは、このマルチカラーライドスコープ19をそのまま直進し、通過していくが、直進性の悪いレーザービームは、各々のガラス基板20の側面で反射され、レーザービームが90度方向を曲げられる。その方向は、ファーストアクシス方向となる。

【0049】つまり、このマルチカラーライドスコープ19からであるレーザービームのファーストアクシス成分は、マルチカラーライドスコープ19に入るレーザービームのファーストアクシス成分と、マルチカラーライドスコープ19に入るレーザービームのスローアクシス成分の直進性が悪い成分との合成ビームとなる。一方、このマルチカラーライドスコープ19からであるレーザービームのスローアクシス成分は、マルチカラーライドスコープ19に入るレーザービームのスローアクシス成分の直進性が良い成分だけとなる。

【0050】次に本発明の第3実施例を、図18、図19、図20および第1実施例の説明に用いた各図を参照しながら説明する。

【0051】図18、図19において、5は半導体レーザーアレイスタック、6はファーストコリメートレンズ、33はスローコリメートレンズ、7a・7bはファーストアクシス方向の縮小シリンドリカルコリメータ、8a・8bはスローアクシス方向の第1拡大シリンドリカルコリメータ、9はマルチビームサーキュレータ、10a・10bはファーストアクシス方向の第2拡大シリンドリカルコリメータ、11は集光レンズである。

【0052】次に、具体的に、数値を示しながら、図18、図19で示した集光光学系の機能について説明をする。

【0053】本実施例において、半導体レーザーアレイスタック5(図3参照)は、1kWのレーザー出力を有しており、従来例で述べたように、50個の半導体レーザーエミッタ4からなる半導体レーザーアレイスタック5を搭載した半導体レーザーアレイ1が、その厚み方向に20個積層されている。

【0054】従来例で述べたように、この半導体レーザーアレイスタック5から出るレーザービームの拡がり角(全角)は、ファーストアクシス方向に35度、スローアクシス方向に10度となっている。また、レーザービームの発光面、つまり、出口でのレーザービーム径は、ファーストアクシス方向に40mm、スローアクシス方向に10mmとなっている。

【0055】この20個の半導体レーザーアレイ1に搭載されている半導体レーザーエミッタ4の前方には、それぞれ、ファーストコリメートレンズ6が取付けられている。図6には、1個の半導体レーザーアレイ1と、それに搭載されているファーストコリメートレンズ6の側面図を示している。図6において、2は半導体レーザーアレイチップ、3はヒートシンク、12は半導体レーザーアレイチップ2から出たレーザービームである。

【0056】このファーストコリメートレンズ6により、ファーストアクシス方向に拡がっていくレーザービームを、概略平行ビームにすることができる。その結果、ファーストアクシス方向のビーム拡がり角(全角)は、35度から0.24度(4mrad)に改善される。一方、スローアクシス方向のビーム拡がり角(全角)は、10度、つまり175mradとなっている。

【0057】さらに、このファーストコリメートレンズ6の前方にはスローコリメートレンズ33が配設されて10いる。このスローコリメートレンズ33の1例を図20を参照して説明する。なお、本図においては、スローアクシス方向のレーザービームの伝播を理解しやすくするために、ファーストコリメートレンズ6を省いている。

【0058】図20において、2は半導体レーザーアレイチップ、4は半導体レーザーエミッタ、33はスローコリメートレンズ(レーザービームのスローアクシス方向成分のレーザービーム拡がり角を低減するレンズをこのように称す。)である。半導体レーザーエミッタ4は200μmピッチで並べられており、その幅は100μm、そのビーム拡がり角(全角)θ₃は175mradである。スローコリメートレンズ33は、半導体レーザーエミッタ4と同数のシリンドリカルレンズ33aで構成されている。各シリンドリカルレンズ33aの幅は200μmであり、そのピッチも200μmである。また各シリンドリカルレンズ33aは、対応する半導体レーザーエミッタ4の前方に設置されている。

【0059】半導体レーザーエミッタ4から出たレーザービームは、それに対応するシリンドリカルレンズ33aに入射し、ここを通過したときにレーザービーム拡がり角θ₄が、半導体レーザーエミッタ4から出た際のレーザービーム拡がり角θ₃の1/2、すなわち87.5mradとなる。

【0060】なお本実施例では、各半導体レーザーアレイチップ2に対して、それぞれスローコリメートレンズ33が必要であるが、半導体レーザーアレイチップ2を積層して半導体レーザースタック5を形成するとき、各半導体レーザーアレイチップ2の半導体レーザーエミッタ4の位置をすべてファーストアクシス方向に1直線上に揃えるようにすれば、この半導体レーザーアレイスタック5に対し、1個のスローコリメートレンズ33ですませることができる。

【0061】次に、ファーストアクシス方向レーザービームを、縮小シリンドリカルコリメータ7a・7bにより、1/3に縮小すると、その拡がり角(全角)は3倍、つまり、12mradとなる。一方、レーザービーム径は1/3、つまり13.33mmとなる。

【0062】スローアクシス方向レーザービームについては、第1拡大シリンドリカルコリメータ8a・8bにより、2.5倍に拡大すると、その拡がり角(全角)は1/2.5倍、つまり35mradとなる。一方、レー

レーザービーム径は2.5倍、つまり25mmとなる。

【0063】次に、これらの光学系を通ってきたレーザービームに対して、スローアクシス方向に、そのレーザービームを複数個（例えば、10個）に分割する。更に分割された各々のレーザービームを90度回転させる。このようにレーザービームを分割し、かつ、分割された各々のレーザービームを90度回転させる機能を有する部材として、第1実施例において詳述したマルチビームサーキュレータ9を用いている。そしてマクロ的にみると、このマルチビームサーキュレータ9により、ファーストアクシスとスローアクシスのレーザービームの拡がり角が入れ替わる。

【0064】そのため、マルチビームサーキュレータ9を通ってきたレーザービームのファーストアクシス方向のビーム径は13.33mm、拡がり角は35mradとなり、スローアクシス方向のビーム径は25mm、拡がり角は12mradとなる。

【0065】次に、ファーストアクシス方向の第2拡大シリンドリカルコリメータ10a・10bにより、レーザービームはファーストアクシス方向にだけ、3倍に拡大される。そのため、ファーストアクシス方向のビーム径は40mm、拡がり角は12mradとなる。

【0066】そして、最後に、集光レンズ11により、レーザービームが集光される。例えば、集光レンズ11の焦点距離が50mmのとき、集光スポット径は、0.6mm×0.6mmとなる。

【0067】このように、本発明によると、集光スポット径は、0.6mm×0.6mmといった対称的なスポット径を得ることができる。更には、径0.6mmという大きさまで、集光することができる。

【0068】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の半導体レーザー加工装置および半導体レーザー加工方法によれば、コンパクトな光学系を用いながら、幾何学的に対称的でかつ微小なスポット径のスポットにレーザービームを集光することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】半導体レーザーアレイの斜視図。

【図2】半導体レーザーアレイスタックの斜視図。

【図3】コリメートレンズを付けた半導体レーザーアレイスタックを示し、(a)はその斜視図、(b)は原理図。

【図4】本発明の第1実施例における集光光学系のファーストアクシス方向の断面図。

【図5】本発明の第1実施例における集光光学系のスローアクシス方向の断面図。

【図6】ファーストコリメートレンズを付けた半導体レーザーアレイの断面図。

【図7】プリズムの側面図。

【図8】プリズムの上面図。

【図9】プリズムの側面図。

【図10】180度回転するレーザービームの説明図。

【図11】90度回転するレーザービームの説明図。

【図12】マルチプリズムの原理を示し、(a)は側面図、(b)は変換前後のレーザービーム像を原理的に示す図。

【図13】本発明の第2実施例におけるマルチカラーライドスコープによる集光光学系のファーストアクシス方向の断面図。

【図14】本発明の第2実施例におけるマルチカラーライドスコープによる集光光学系のスローアクシス方向の断面図。

【図15】マルチカラーライドスコープの断面図。

【図16】ファーストアクシスレーザービームとマルチカラーライドスコープの断面図。

【図17】スローアクシスレーザービームとマルチカラーライドスコープの断面図。

【図18】本発明の第3実施例における集光光学系のファーストアクシス方向の概略図。

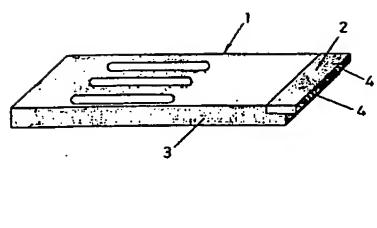
【図19】その集光光学系のスローアクシス方向の概略図。

【図20】スローコリメートレンズと半導体レーザーアレイとの関係を示す図。

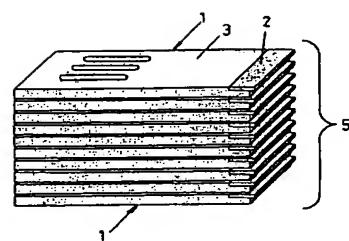
【符号の説明】

- 1 半導体レーザーアレイ
- 2 半導体レーザーアレイチップ
- 3 ヒートシンク
- 4 半導体レーザーエミッタ
- 5 半導体レーザーアレイスタック
- 6 コリメートレンズ（ファーストコリメートレンズ）
- 7a・7b 縮小シリンドリカルコリメータ
- 8a・8b 第1拡大シリンドリカルコリメータ
- 9 マルチビームサーキュレータ
- 10a・10b 第2拡大シリンドリカルコリメータ
- 11 集光レンズ
- 14 プリズム
- 18 マルチプリズム
- 19 マルチカラーライドスコープ
- 20 ガラス基板
- 33 スローコリメートレンズ

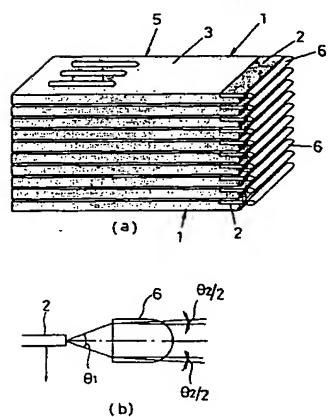
【図1】



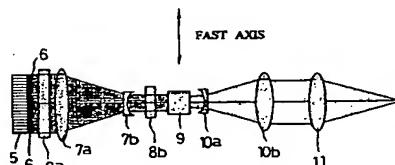
【図2】



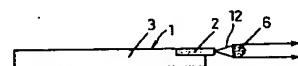
【図3】



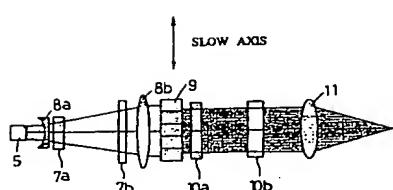
【図4】



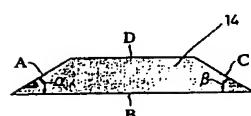
【図6】



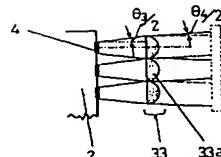
【図5】



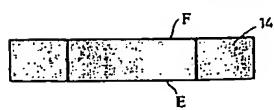
【図7】



【図20】



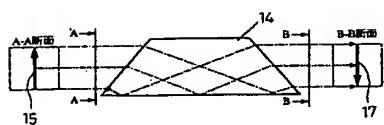
【図8】



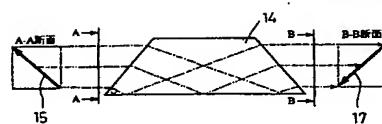
【図9】



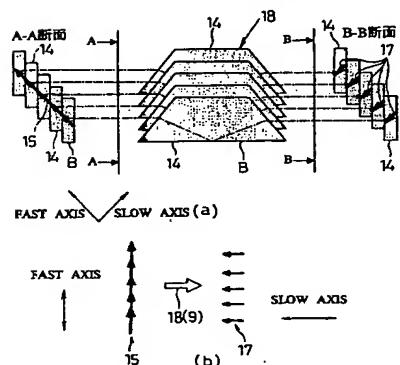
【図10】



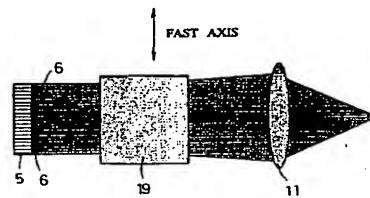
【図11】



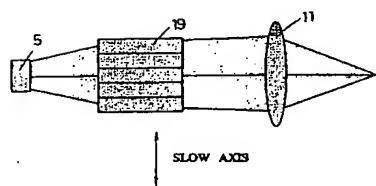
【図12】



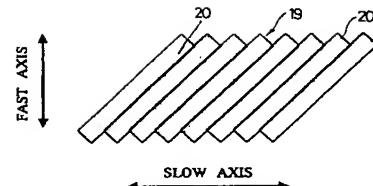
【図13】



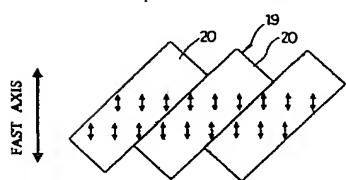
【図14】



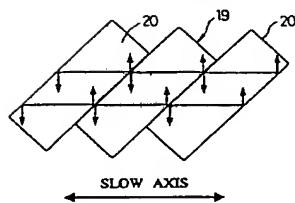
【図15】



【図16】

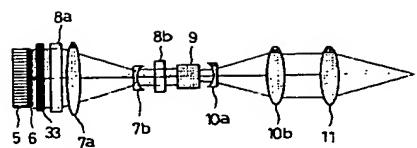


【図17】



NOT AVAILABLE COPY

【図18】



【図19】

